

レスキュー安全マニュアル 地震・津波・台風対応編

1. 地震・津波対応について

1-1 はじめに

- ・海の近くに活動拠点があるため、津波の発生を想定し、高台への避難をする。
- ・年に2度、避難訓練を行い、避難経路の確認及び避難の動きを確認する。
- ・ハザードマップを確認し、危険な場所と比較的安全な場所を把握する。
- ・緊急時に備え、非常用持ち出し袋を用意する。
- ・陸にいるメンバーは地震発生情報を海上メンバーに電話、ラインで伝える。

→海上では強い揺れでも気づくのが難しい。東北セーリング連盟「3.11 東日本大震災における津波からの避難報告」参照。

- ・避難場所が異なった場合、責任者が連絡を取り合う。
- ・部員の安否を確認し次第、監督・コーチに報告を行う。

1-2 避難行動

- ・基本行動

①基本的に避難場所は葉山小学校。

→葉山港は混雑・混乱が予想されるため、基本的に森戸海岸右側（森戸神社付近）に着艇。比較的短時間で高台にいけるため、光徳寺経由で葉山小学校を目指す。

②光徳寺が自主避難所であるため、先に進めない際はそこに滞在する。

③部員同士の避難場所が離れている場合、電話、ライン、トランシーバー、災害用伝言ダイヤル（171）等で常に連絡を取る。

- ・陸にいる場合

①安全の確保。（窓・扉の開放）

②揺れが収まってから火元確認。

③艇庫前に集合。

④点呼、人数確認。

⑤3年、1年、2年、4年の順に速やかに避難する。

⑥避難が完了した時点で、離れている部員・監督コーチに報告。

・海にいる場合

絶対に陸に帰る

①情報の取得。

→葉山港のVHF(77ch)と※津波フラッグ(余裕がなく掲揚がない可能性あり)、陸のメンバーからの連絡、緊急地震速報など。

②最も早い方法で帰着。(上級生、責任者が判断)

→・艇体放棄、曳航、帆走

・津波警報が発令された場合は、即座に艇体放棄する。(警報が発令されるのは災害発生後、約3分)

・津波注意報の場合は基本的に曳航。ただし、微風の場合は、完沈させ艇体放棄も候補。

・南風強風などの場合、帆走での帰着も候補。この際沈に注意。

・迷ったら艇体放棄。

・レスキューは、注意報であった際は葉山港、警報が出た際は浜に乗り上げ。

③人数確認。

④速やかに避難所へ向かう。

→合宿所へは絶対に立ち寄らない。

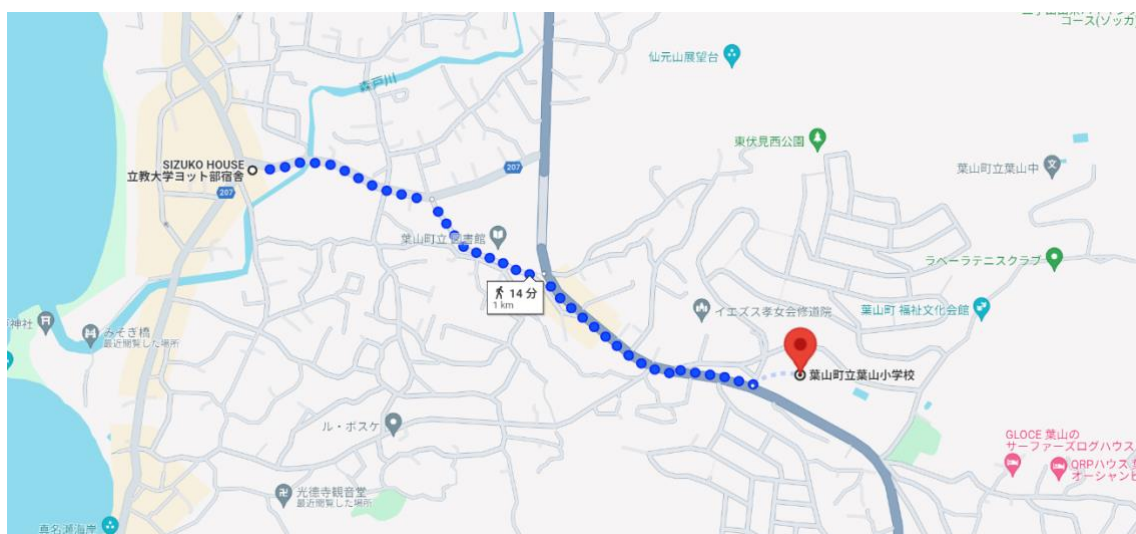
⑤避難が完了した時点で、離れている部員・監督コーチに報告。

1-4 避難場所

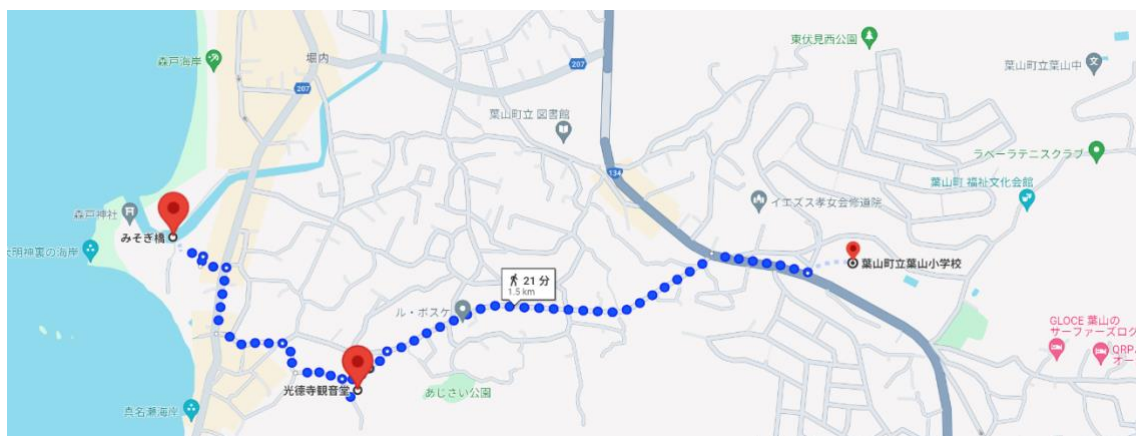
・合宿所付近

→葉山小学校 〒240-0112 神奈川県三浦郡葉山町堀内2050-1

合宿所からの避難経路（所要時間：14分）



森戸海岸からの避難経路（所要時間：21分）



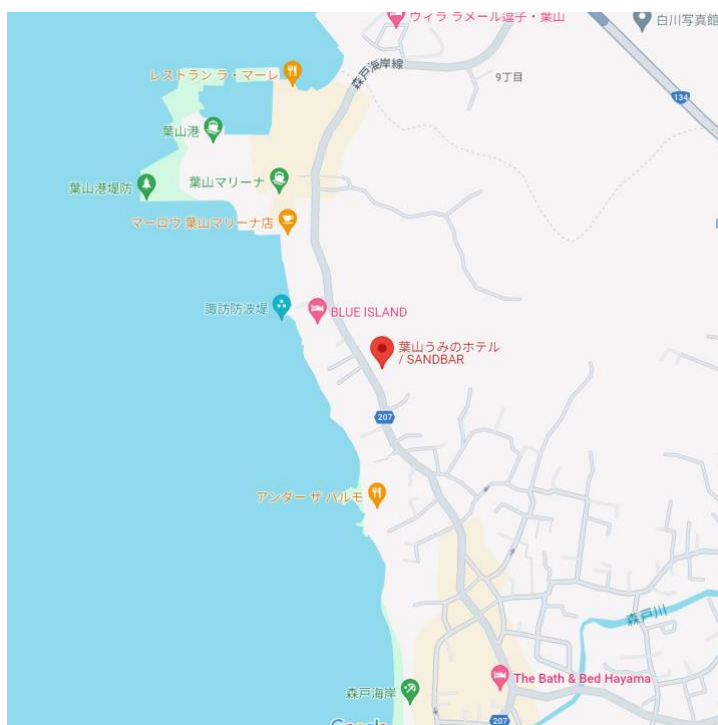
・葉山港付近

→中央大学合宿所付近の高台（約470m、葉山港から所要時間：6分）



・合宿所と葉山港の間

→海のホテル 〒240-0112 神奈川県三浦郡葉山町堀内251-1



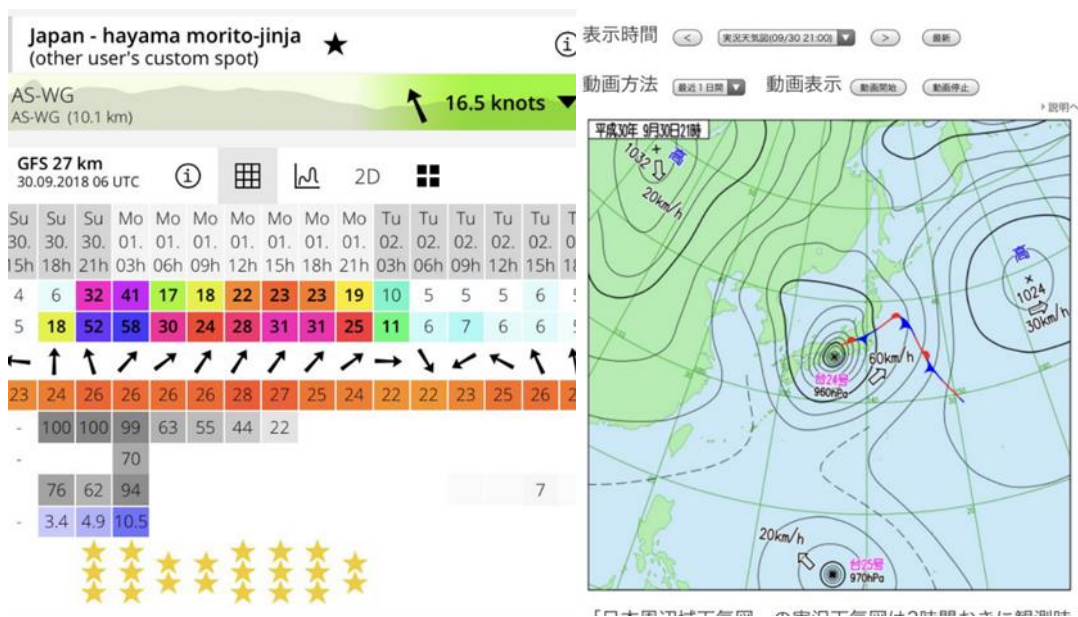
2. 台風対応について

2-1. はじめに

- ・ 台風の情報を事前に収集する。
- ・ 避難当日は人命を第一に考え、点呼を徹底、単独行動はとらない。
- ・ 避難解除後の動きを考慮し翌日の人員配置をする。

2-2 事前準備

1. 台風の情報収集



2018年9月30日～10月1日 台風24号

- ・ 風の子報や天気図を参考に台風の規模を想定し、計画を立てる。
- ・ 気象庁が発表する台風の勢力を確認すること。 ※以下気象庁引用

気象庁は台風のおおよその勢力を示す目安として、下表のように風速（10分間平均）をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。「大きさ」は強風域（風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲）の半径で、「強さ」は最大風速で区分

しています。さらに、風速 25m/s 以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

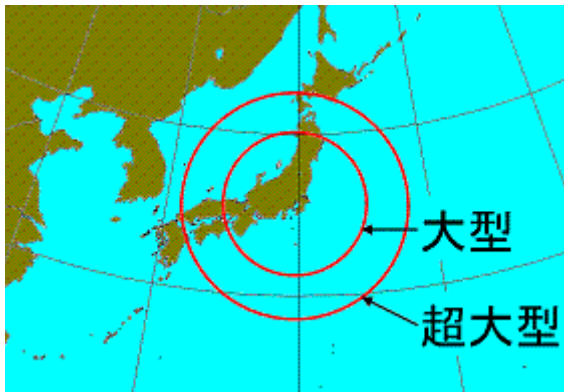
強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s (64 ノット) 以上～44m/s (85 ノット) 未満
非常に強い	44m/s (85 ノット) 以上～54m/s (105 ノット) 未満
猛烈な	54m/s (105 ノット) 以上

大きさの階級分け

階級	風速 15m/s 以上の半径
大型 (大きい)	500km 以上～800km 未満
超大型 (非常に大きい)	800km 以上

大型、超大型の台風それぞれの大きさは、日本列島の大きさと比較すると以下のようになります。



台風に関する情報の中では台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で強い台風」のように呼びます。ただし、強風域の半径が500km未満の場合には大きさを表現せず、最大風速が33m/s未満の場合には強さを表現しません。例えば「強い台風」と発表している場合、その台風は、強風域の半径が500km未満で、中心付近の最大風速は33～43m/sで暴風域を伴っていることを表します。

なお、台風情報では暴風域を円形で示します。この円内は暴風がいつ吹いてもおかしくない範囲です。

3. 合宿所準備

- ・靴箱など背の高いものはあらかじめ倒す。
- ・停電を考慮し懐中電灯を準備する。
- ・携帯の充電をしておく。
- ・全員で避難場所の確認。
- ・鍵の所在を共有。

※2018年台風24号の際、棚が倒れ、いつもの場所に鍵を置けなかったため個人が持ち歩いた。結果所在が不明確になり合宿所に入れない人が出た。

- ・服装は危険が及びにくいものにする。
- ・ガラスが割れないように対処する。
- ・シャッターが破損しないよう補強。

4. 人員配置

- ・何人合宿所に残すか。

→翌日風が収まっても、高潮により浜バースが使えない可能性あり、すぐに撤退できる
とは限らない

- ・ピーク時間帯、危険度を考慮する。
- ・迅速な非難の為に外出時刻を制限する。
- ・二人一組以上で行動する。